

郡上農林事務所の普及活動状況 令和4年9月30日現在

今月の重点活動

■青年農業士 若手農業者による軽トラ市を支援

郡上地区青年農業士連絡協議会（会員7名）では、市内の若手農業者の活動を支援している。今年は、9月17～18日に開催された第12回食の祭典inぎふ郡上2022の郡上マルシェ（軽トラ市）に参加するとともに、若手農業者2名の出店を支援した。

2日間うち17日のみの参加となったが、自分で作った野菜、花、農産物加工品などを消費者に直接販売し、自分の農産物の評価や自分をPRする良い機会となった。

農業普及課は、関係機関と連携を図りながら、今後も青年農業士や若手農業者の活動を支援していく。



【農産物販売の様子】

郡上の農業・農村を支える人材育成

■農業大学校 トマト生産者が派遣学習を受け入れ

岐阜県農業大学校は毎年派遣学習を実施しており、郡上地域では9月12日から17日まで1学年1名の派遣が行われた。本人はいちごを専攻する学生であったが、出身地和良町での学習を希望したことから、地元農業者の元で夏秋トマトの管理作業実習を行った。

今回学生を受け入れた生産者は、幼いころから本人を知っており、要領よく作業をこなしてくれてとても助かったと感想を述べられていた。

農業普及課では就農への期待を込めつつ、今後も派遣学習の受け入れを推進していく。



【メモを取る研修生】

■夏秋トマト・研修 摘芯後の管理を実施

J Aめぐみの郡上トマトの学校では、本年度2名の研修生を受け入れ、ほ場実習および座学による研修を行っている。

9月22日にはJ A技術指導員、普及指導員らのもとで摘芯後の葉かき、摘果等を実習した。農業普及課からは、ハウスの温度、水管理等についての説明や研修生からの病虫害の質問に対して回答し、研修生の幅広い技術習得に向け支援を行った。

今後も続けて研修を重ね、最終段階までの確に収穫ができるよう関係機関と連携し、研修生への支援を行う。



【ほ場実習の状況】

安心で身近な「郡上の食」づくり

■だいこん ひるがの高原だいこん ぎふ清流GAP実践農場視察対応

ひるがの高原だいこん生産出荷組合では、ぎふ清流GAPの取り組みを進めている。令和3年度は2経営体が取り組みを始め、今年度は、さらに4経営体が農場審査に向け改善を行うとともに、団体申請も併せて準備を進めている。

また、岐阜県では、ぎふ清流GAP実践農場で生産された農産物を県内消費につなげるため、県内ホテルの料理長らによる現地視察を実施しており、今回は昨年度からぎふ清流GAPに取り組んでいる(株)エスタンシアにて、だいこんの出荷調整作業を視察するとともに、栽培ほ場で農業普及課より栽培や生育状況を説明した。

農業普及課では、今後もひるがの高原だいこん生産出荷組合のぎふ清流GAPの取り組み拡大と合わせて、消費拡大に向けた取り組みを支援していく。



【出荷調整作業の説明を
聞く料理長ら】

郡上農畜水産物のブランド展開

■切り花 ひるがのフラワーサークルで遮光資材の検討会を実施

ひるがのフラワーサークルでは、9月9日JAめぐみの花き集荷場で遮光資材の検討会を開催した。

夏期の高温対策の1つとして銀色遮光資材を用いてハウス被覆を行っているが、より昇温抑制効果が期待できる白色遮光資材の導入について検討した。

農業普及課から、慣行の銀色遮光資材と白色遮光資材の7月から8月高温期のハウス内気温の比較調査結果を報告した。また、実証生産者からも「白色資材のほうが涼しく感じた」との意見もあり、白色遮光資材導入の機運が高まった。

農業普及課では、今後も産地の課題解決につながる活動を続けていく。



【白色遮光資材(手前)と
銀色遮光資材(奥)】